

## 単収 200kg 以上、2等級以上を目指して 干ばつ防止と適期防除で収量・品質向上

### 1 生育及び作業状況

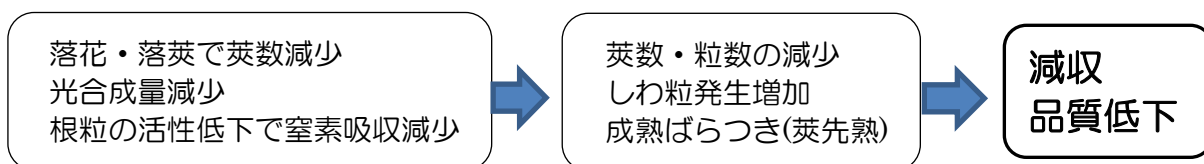
- 断続的な降雨（5/29、6/2、9）による作業の遅れが一部で見られたものの、耕起・播種作業はおおむね順調であった。
- 全体的に、播種後の適度な降雨により出芽は良好であった。

### 2 排水・湿害対策

- 大雨等による浸水被害対策や湿害対策
  - 明渠に「つまり」や「くずれ」がないか確認し、確実に排水路に繋げる。
  - 畝間を明渠に繋げる。
  - 暗渠栓、水尻を開放したままにする。
- 湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られた場合、排水対策を徹底した後、速効性肥料を窒素成分で2～3kg/10a追肥し、培土する。

### 3 干ばつ防止対策

- 湿害を受けた大豆ほど干ばつの影響を大きく受ける。



#### (1) 暗渠栓の管理

- 排水の良いほ場では、梅雨明け後に暗渠栓を閉め、地下水位を維持する。
- まとまった降雨があった場合は、速やかに暗渠栓を開け、排水に努める。

#### (2) 畝間かん水の実施（条件：排水の良い圃場※1日以内に地表水を排水できる）

- 畝間かん水の目安
  - 高温・少雨で晴天が2週間以上続いた場合
  - 最頂葉の小葉が直立し（図）、ほ場全体で葉の裏面が目立ってきた場合
- 夕方からかん水し、ほ場全体に行き渡ったらすぐに排水する。
- 大区画ほ場は数日に分けてかん水する



（水口付近の湿害防止）。 図 かん水のめやす(直立した小葉)

## 4 雑草対策

○2回目の中耕・培土を確実に行う。

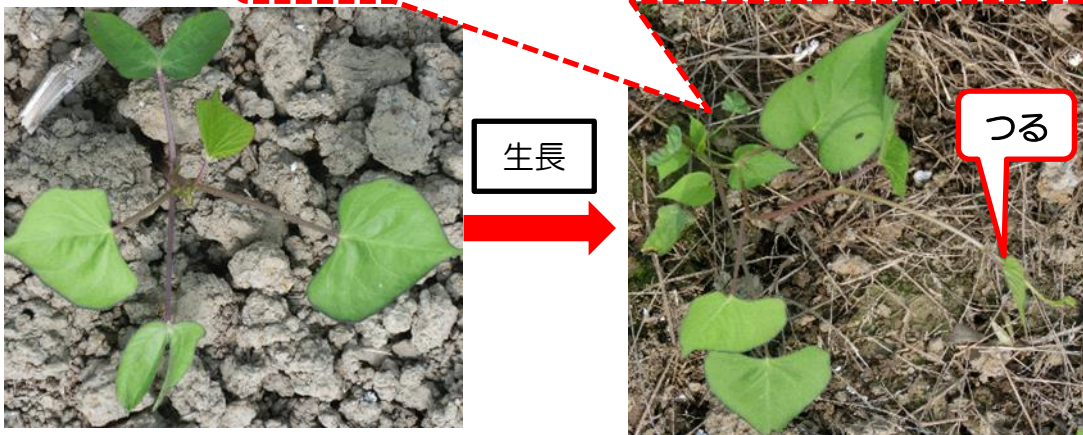
作業は、開花始期(7月20日頃)までに終える(生育抑制・落花・落莢防止)。

○降雨の影響で中耕・培土できず、雑草の発生が懸念される場合は、生育期処理除草剤を適正に使用する。

- 全面散布できる茎葉処理除草剤(イネ科用除草剤、広葉用除草剤がある)
- 畦間散布用の非選択制の茎葉処理除草剤(大豆にかけないように注意!)
- 畦間・株間散布用の茎葉兼土壌処理除草剤

○帰化アサガオ類が発生している場合は、除草の徹底と被害拡大防止に努める。除草剤散布、中耕・培土を実施しても雑草が残った場合は、早めに手取り除草する。

帰化アサガオ類は、つるが発生する前に、除草しましょう。



## 5 病害虫防除—葉焼病、ウコンノメイガ、紫斑病、マメシンクイガ

### (1) 葉焼病

○里のほほえみで開花期頃(7月下旬頃)に発生が確認されたら防除する。

### (2) ウコンノメイガ(ハマキムシ)

○播種期の早いほ場、葉色の濃いほ場で発生しやすい。

○7月下旬に1株平均2つ以上の「葉巻」が確認されると、防除が必要となる。

「葉巻」の発生初期(7月下旬~8月上旬頃)に早めに防除する。

### (3) 紫斑病

○防除効果の高い開花期4週間後頃に防除する。薬剤散布を複数回実施する場合は、開花期3週間後頃または5週間後頃に追加で散布する。

### (4) マメシンクイガ

○連作ほ場や前年に多発したほ場で発生しやすい。

○例年多発生しているほ場では、防除効果の高い8月下旬と9月上旬の2回、莢に薬剤がよく付着するよう留意し防除を実施する。

農薬の使用にあたっては、ラベルに記載されている使用基準や注意事項・使用方法をよく読み、内容を遵守して使用しましょう。周辺への飛散に注意!!